

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百十七號

昭和八年五月一日(月)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一二八二號ノ二

昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和八年四月二十日

海軍大臣

歳出臨時部

款	項	目	節	解 疏	會計科目 電信略號
件滿洲事 費	件滿洲事 費	軍港 要港 費			ケシ
		港用品費			ケヒ
		備給			ケモ

○ 辭 令

海軍公報(部内限) 第千五百十七號 昭和八年五月一日

○ 雜 款

第一班第二課勤務ヲ命ス(四月十六日海軍軍令部)

海軍大尉 山田 正

○郵便物發送先

軍艦五十鈴、嵯峨、第十三驅逐隊(吳竹、若竹、早苗)宛

自今

基隆郵便局氣付

0993

0244

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百十八號

昭和八年五月二日(火)

海軍大臣官房

○ 通 牒

官房機密第五四五號ノ二

昭和八年五月二日

海 軍 次 官

各鎮守府司令長官殿

練習生ニ關スル件通牒

本年官房機密第五四五號ニ依ル高等科、潜航術及特修科(軍樂術ヲ除ク)各種練習生ハ九月一日以降採用實施ノ事ニ定メラレ候

(昭和八年三月二十三日公報(部内限)参照)

○ 雜 款

○第二十八驅逐隊(蓬、蓮、蓼)行動豫定

地名 着 發

鎮 海 五月二日 五月二日
敷 海 五月二日 三日

鎮 海 四 日

○郵便物發送先

第十四驅逐隊(葵、夕顔、菊)宛

自 今

門司郵便局氣付

○電話架設

特別大演習第四艦隊司令部事務所用(東京水交社内)

芝 二四四五番

海軍公報(部内限)第千五百十八號 昭和八年五月二日

一八三

0994 0245

(部 内 限)

海軍公報 (部内限) 第千五百十九號

昭和八年五月三日(水)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一五〇五號ノ七
昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス
昭和八年四月二十六日

歳出臨時部 海軍大臣

款	項	目	解 疏	會計科目 電信略號
(滿洲事件費)	(滿洲事件費)			
	× 賞 與			ケス

官房第一五〇五號ノ八
昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス
昭和八年四月二十八日

歳出臨時部 海軍大臣

○ 通 牒

款	項	目	解 疏	會計科目 電信略號
地磁氣 觀測費	地磁氣 觀測費	給 與		ク ト

官房第一九六七號
昭和八年五月三日

海軍省 副官

關係各廳長殿

報國第十九號(新潟號)及同第三十二號

(湘南號)飛行機ノ要目發表及寫眞撮影範

圍ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ兩飛行機共報國第二十一號(埼玉號)飛行機ニ關スルモノト同一ノ義ト御了知相成度

(三月十日公報(部内限)所載官房第一〇二二號參照)

海軍公報(部内限)第千五百十九號 昭和八年五月三日

一八五

0995 0246

○雜款

○第五驅逐隊(松風、春風、旗風、朝風)行動豫定
地名 着 發

橫須賀 五月八日 五月八日
館山 五月八日 十六日
橫須賀 十七日

○郵便物發送先

第五驅逐隊(松風、春風、旗風、朝風)宛
五月六日迄ニ到達見込ノモノハ、横須賀
同 十六日迄ニ 同 館山
其ノ後ハ、横須賀

○郵便物發送先變更(一月十三日)

第一艦隊司令部、聯合艦隊司令部、軍艦陸奥、日向、
榛名、金剛、第一戰隊司令部、第三戰隊司令部、軍
艦阿武隈、由良、名取、第一水雷戰隊司令部、軍
艦夕張、第二十二驅逐隊(皐月、水無月、長月、文
月)、第二十三驅逐隊(菊月、三月月、望月、夕月)、
第三十驅逐隊(陸月、如月、彌生、卯月)、第一潜水
戰隊司令部、軍艦迅鯨、第二十八潜水隊(伊六三、
伊五九、伊六〇)、第三十潜水隊(伊六六、伊六五、
伊六七)、第一航空戰隊司令部、軍艦加賀、鳳翔、第
二驅逐隊(沖風、峯風、矢風、澤風)、特務艦鶴見宛

五月八日迄ニ到達見込ノモノハ、
同 十日迄ニ 同 沖繩縣與那原
其ノ後ハ、鹿兒島縣志布志
各所屬軍港

○郵便物發送先變更(二月一日)

第二艦隊司令部、軍艦鳥海、愛宕、高雄、摩耶、第
五戰隊司令部、軍艦青葉、衣笠、加古、第二水雷戰
隊司令部、軍艦神通、第七驅逐隊(潮、臘、曙)、
第八驅逐隊(天霧、朝霧、夕霧)、第十一驅逐隊(深
雪、初雪、白雪)、第十二驅逐隊(白雲、叢雲、東
雲)、第二潜水戰隊司令部、軍艦球磨、第十八潜水
隊(伊五三、伊五四、伊五五)、第十九潜水隊(伊
五六、伊五七、伊五八)、特務艦能登呂宛
五月八日迄ニ到達見込ノモノハ、
同 十日迄ニ 同 沖繩縣與那原
其ノ後ハ、鹿兒島縣志布志
各所屬軍港

○郵便物發送先變更(四月五日)

特務艦鳴戸宛
五月六日迄ニ到達見込ノモノハ、
其ノ後ハ、沖繩縣與那原
横須賀

0996 0247

(部 内 限)

海軍公報 (部内限) 附録

海軍大臣官房

昭和八年五月三日(水)

昭和八年三月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

(海軍省軍務局)

五十鈴	多摩		平戸			艦船名	加算始終期(左右)	著地名	行先	任務	加算恩給率	叙勳	記事
	三	一八	三	二五	三								
三	一八	一五	二五	二二	八	七	月	旅順	青島	同	一月半	同上	
九馬公	同	旅順	同	同	同	旅順	日	旅順	青島	同	一月半	同上	
	青島		青島	山海關沖					外國鎮戍				
	外國鎮戍		同	外國鎮戍									

海軍公報 (部内限) 附録

0997 0249

佐 多	襟 裳	青 島	淀		磐八 手雲	常 磐		駒 橋	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二四	一九	二三	二四	一九	六	二二	二一	二	二五
横須賀	横須賀	同佐世保	同	同	横須賀	同	旅順	基隆	馬公
		流揚子域江	石城島	山海關	<small>北米合衆國、 加奈陀、 母、布哇、 群島、西</small>	秦皇島			興化浦
		同	同	同	同	外國鎮戍			外國鎮戍
		同	同	同	同	一月半			一月半
		同上	同上	同上	同上	同上			同上

藤		薄		萩		神		威	
三 二八	三 一一	三 九	三 一四	三 一二	三 二二	三 二〇	三 七	三 五	三 二五
同	同	旅	同	旅	同	同	旅	同	旅
		順		順			順		順
山海關		太 沽		太 沽	山海關		菊花島沖	山海關	
外國鎮戍		外國鎮戍		同	外國鎮戍		同	外國鎮戍	
一月半		一月半		同	一月半		同	一月半	
同上		同上		同上	同上		同上	同上	

0999 0250

芙蓉		朝顔			早奥 苗竹	若竹		葛	
三三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二三	七	二五	二三	七	一五	二九	一五	二〇	三一
同	旅	同	同	旅	馬	同	馬	旅	旅
	順			順	公		公	順	順
秦皇島		山海關	秦皇島			興化浦			青島
外國鎮戍		同	外國鎮戍			外國鎮戍			外國鎮戍
一月半		同	一月半			一月半			一月半
同上		同上	同上			同上			同上

1000 0251

帽 島 丸	刈 萱	
八	三	三
三	二五	二九
七	同	同
旅	同	同
順	同	同
	山海關	秦皇島
	同	同
	同	同
	同上	同上

○昭和五年八月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期中
 椿、楨、櫻、榆、栗、柿ノ各項目中一月半ノ下ニ「同上」ヲ記入ノコト

○昭和八年二月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期中
 葛ノ部 「八、二、二一 吳 旅順 同、同、同上」ヲ削リ「二、二六」ノ上ニ「八」ヲ加フ

(部 内 限)

海軍公報

(部内限) 第千五百二十號

海軍大臣官房

昭和八年五月四日(木)

○ 通 牒

經豫第二八六號

本年經豫第二一九號昭和八年度滿洲事件費整理區分中
左ノ通追加シ昭和八年四月二十日ヨリ之ヲ適用ス

昭和八年四月二十日

海軍省經理局長

二、中々、武功調査費ノ次ニ

「レ、軍港要港費

- (一) 旅順要港部ニ於テ要スル港用品費、備給等
- (二) 特命ニ依ル港用品費、備給等

ヲ追加ス

海軍公報(部内限) 第千五百二十號 昭和八年五月四日

一八七

1002 0253

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百二十一號

昭和八年五月五日(金)

海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍航空本部ニ於ケル事件航空關係記録編纂事務屬
託ヲ解ク(註明海軍省)

海軍少佐 吉田 毅雄

三島 忠雄

佐世保海軍工廠ニ於ケル事變關係造船業務ヲ囑託ス
但シ報酬月額七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(附同)

(各通)

海軍少將 古賀 峯一
海軍大尉 中村 三男

中華民國へ出張ヲ命ス

海軍主計少佐 鈴木 久

滿洲國へ出張ヲ命ス

(各通)

臺灣總督府技師 高橋 春吉
同 鳥居 敬造

臺灣海軍豫備油田試掘事業監督ヲ囑託ス(以上附同)

○ 雜 款

○ 練習艦隊(八雲、磐手)外國航海行動豫定變更
(三月一日本欄参照)

地 名 着

ホノルル 六月二十九日

ヤルット 六月十八日

トラツク 八月九日

ハラオ 十七日

横須賀 二十八日

○ 懲 罰

懲罰言渡書

海軍公報(部内限) 第千五百二十一號 昭和八年五月五日

一八九

1003 0254

海軍公報（部内限）第千五百二十一號

昭和八年五月五日

一九〇

1004 0255

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百二十二號

昭和八年五月六日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密九五二號

海軍工廠資金臨時補足ヲ以テ支辨セル材料物品ノ保管
出納上必要アルトキハ通常物品出納命令官ハ之ガ保管
ヲ依託スル應勤務ノ士官ニ分任通常物品會計官吏ヲ命
スルコトヲ得

通常物品出納命令官前項ニ依リ分任通常物品會計官吏
ヲ命シタルトキハ其ノ旨報告スベシ之ヲ免シタルトキ
亦同シ

昭和八年五月六日

海軍大臣

海軍公報(部内限) 第千五百二十二號

昭和八年五月六日

一九二

1005

~~0256~~

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百二十三號

海軍大臣官房

昭和八年五月八日(月)

○通牒

○特別大演習特設司令部事務取扱開始左ノ通

昭和八年五月八日

特別大演習統監部

特設司令部

事務取扱開始期日

場所

第八戰隊司令部

五月十日

軍艦那珂

○辭令

豫備役海軍中將 濱野 英次郎

右自昭和八年六月十五日至九月四日八十二日間演習

ノ爲召集ス

豫備役海軍中將 植村 茂夫

右自昭和八年五月十日至九月四日百十八日間演習ノ

爲召集ス

(各通)

海軍中將 濱野 英次郎
同 植村 茂夫

召集中海軍軍令部出仕被仰付

海軍中將 濱野 英次郎

海軍少將 大野 寛 昭和八年特別大演習部隊編成中第

三潜水戰隊司令官トシテ就任不在中大湊要港部司令

官代理被仰付

海軍中將 植村 茂夫

海軍少將 鹽澤 幸一 昭和八年特別大演習部隊編成中第

九戰隊司令官トシテ就任不在中鎮海要港部司令官代

理被仰付(以上皆海軍省)

海軍公報(部内限) 第千五百二十三號 昭和八年五月八日

一九三

1006 0257

海軍公報

(部内限) 第千五百二十四號

海軍大臣官房

昭和八年五月九日(火)

○令達

官房第一五〇五號ノ九

昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和八年五月九日

海軍大臣

歳出臨時部

款	項	目	節	疏	會計科目 電信略號
(水陸整 備費)	(教育機關 設備費)	(學 校 設備費)	初度調 節費		レス

○通牒

特別大演習特設司令部事務取扱開始左ノ通

昭和八年五月六日

特別大演習統監部

特設司令部

事務取扱
開始期日

場
所

第五戰隊司令部

第八戰隊司令部

第九戰隊司令部

第三水雷戰隊司令部

第四水雷戰隊司令部

第四潜水戰隊司令部

第二航空戰隊司令部

五月十日

妙高

北

古鷹

海軍水雷學校

鬼怒

長鯨

横須賀海軍航空隊

記 一、五月十五日以後第三水雷戰隊司令部ハ軍艦
龍田ニ於テ事務ヲ取扱フ

○辭令

海軍公報(部内限) 第千五百二十四號

昭和八年五月九日

一九五

1008

海軍公報(部内限) 第千五百二十四號 昭和八年五月九日

中華民國へ出張ヲ命ス(海軍省)
海軍少佐 山口 太郎

一九六

11259

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百二十五號

海軍大臣官房

昭和八年五月十日(水)

○ 令 達

官房第二一五號

昭和八年度大演習費支出手續左ノ通定ム

昭和八年五月十日

海 軍 大 臣

大演習費支出手續

第一條 昭和八年度大演習費ヲ以テ支辨スベキ費途ノ

細別左ノ如シ

一 俸 給

(イ) 大演習ノ爲特ニ召集セラレタル在郷軍人竝ニ海軍豫備員ノ俸給、航海加俸及特別加俸

(ロ) 大演習ノ爲臨時就役シタル艦船乗員ノ航海加俸

(ハ) 大演習ノ爲臨時勤務ヲ命ゼラレタル者ノ航海加俸

(ニ) 大演習ノ爲特ニ要スル在勤加俸及航空加俸

二 應 費

三 雜給及雜費

(イ) 大演習ノ爲臨時勤務ヲ命ゼラレタル者ノ赴任(復歸共)旅費及轉勤轉乘旅費

(ロ) 大演習ノ爲特ニ召集セラレタル在郷軍人竝ニ海軍豫備員ノ召集旅費及歸郷旅費

(ハ) 特ニ大演習用務ヲ以テスル出張旅費

(ニ) 大演習ノ爲特ニ要スル僻地在勤手当

(ホ) 統監部、本省竝ニ鎮守府各應ニ於テ大演習用務

ノ爲特ニ要スル雇員給、傭人料、職工賃錢、舟

車馬類備貸、家屋共ノ他借料及雜費

(ヘ) 大演習ノ爲臨時就役シタル艦船ニ於テ要スル勞

働手当

四 衣糧費

大演習ノ爲特ニ召集セラレタル在郷軍人、海軍

衣糧費

海軍公報(部内限) 第千五百二十五號 昭和八年五月十日

一九七

1009 0260

- 五 豫備員、臨時勤務ヲ命ゼラレタル者ノ食料並ニ特ニ指定スル糧食購買費
- 六 造船兵及修理費
- 七 特令ニ依ルモノニ限ル艦營費
- 八 大演習ノ爲特ニ要スル燃料費、艦營需品消耗品費、同上保管運搬費、艦船部隊ニ於ケル備入料、舟車馬類備賃及家屋其ノ他借料
- 九 船舶費
- 十 特令ニ依ルモノニ限ル建築費
- 十一 特令ニ依ル假設營繕費(補償費共)
- 十二 患者費
- 十三 特令ニ依ルモノニ限ル港用品費
- 十四 特令ニ依ルモノニ限ル雜件費
- 十五 前各號ノ外大演習ノ爲特ニ要スル諸費但シ訓令通牒又ハ認許アルモノニ限ル

- 一 統監部職員ノ出張旅費ハ所屬艦船部隊應
- 二 臨時勤務ヲ命ゼラレタル者ノ旅費ハ出發ノ際ハ所屬艦船部隊應、復歸ノ際ハ臨時勤務ノ艦船部隊應
- 三 臨時勤務ニ伴フ特別給與ハ當該艦船部隊應
- 四 前各號以外ハ總テ所屬艦船部隊應
- 五 第三條 臨時勤務ヲ命ゼラレタル者ノ特別給與ハ着任ノ日ヨリ退任ノ日迄、臨時就役シタル艦船乗員ノ特別給與ハ就役ノ日ヨリ(就役前演習參加ノ爲所屬軍港又ハ要港ヲ出港シタルトキハ其ノ日ヨリ)演習終了後所屬軍港又ハ要港歸投ノ日迄大演習費支辨トス
- 六 第四條 訓令通牒又ハ認許アルモノノ外總テ配付豫算ニテ處辨スベシ但シ人體給與ニシテ配付豫算ヲ以テ處辨シ難キトキハ事由ヲ詳記シ經理局長ニ請求スベシ
- 七 支拂豫算各節ノ増減ヲ要スルトキハ經理局長ノ承認ヲ受クベシ
- 八 第五條 大演習費ヲ以テ支辨スベキ物品ニシテ購買若ハ製造ノ違ナキモノハ一時在庫品ヲ繰替供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大演習費ヲ以テ補填ノ爲速ニ豫算移用ノ手續ヲナスモノトス

第二條 大演習費支辨ニ屬スル人體給與ノ支出應ヲ區分スルコト左ノ如シ

第六條 支出官竝ニ資金前渡官吏ハ大演習費ヲ以テ支辨シタル費途ニ對シ大演習終了後別表様式ニ依リ報告書ヲ調製シ經理局長ニ提出スベシ但シ資金前渡官吏ノ分ハ支出官ヲ經由スルモノトス

第七條 本手續ニ規定ナキモノハ總テ海軍會計規程其ノ他ノ規定ニ依ル

(別表)

大演習費支出報告

何々(若ハ何々)

科目	細別区分	数量	金額	摘要	備品	消耗品	筆紙墨文具	通信運搬費	印刷費	雜品	雜給及雜費												
											備人料	雇員給	常僻地在勤手	其ノ他ノ旅費	在郷軍人及復歸旅費	務時旅費用	臨時勤務ヲ命ゼレラタル者ノ旅費	統監部職員ノ旅費	臨時勤務ヲ命ゼレラタル者ノ旅費	臨時勤務ヲ命ゼレラタル者ノ旅費			
俸給	本俸																						
	航海加俸																						
	航空加俸																						
	特別加俸																						
	在勤加俸																						

		艦 營 費		修 造 船 理 費 及 兵 費			衣 糧 費											
消 耗 品	艦 營 需 品	燃 料 費		何 々		糧 食 購 買 費	食 料		何 々	勞 働 手 當	雜 費	借 家 屋 其 ノ 他 料	貸 舟 車 馬 類 備			職 工 賃 錢		
				何 々 訓 令 ニ 基 ク 分 等														
	雜 件 費		港 用 品 費		患 者 費		建 築 費		船 舶 費			借 家 屋 其 ノ 他 料	貸 舟 車 馬 類 備	運 搬 費		備 入 料		
	何 々		何 々			何 々 假 設 物		何 々		何 々								
	何 々 訓 令 ニ 基 ク 分 等		何 々 訓 令 ニ 基 ク 分 等		何 々 訓 令 ニ 基 ク 分 等		何 々 訓 令 ニ 基 ク 分 等		何 々 訓 令 ニ 基 ク 分 等									

<p>備考</p> <p>一 第五條ニ依リ繰替供給シタル物品ノ補填ヲ了ラザルモノアルトキハ其ノ品名、數量、金額ヲ別ニ記載スベシ</p> <p>二 鎮守府出師準備及防備計畫實施ノ爲令示セラレタル豫算ニ對シテハ其ノ支出額ヲ摘要欄ニ區分記載スベシ</p>	<p>官房第二一一六號</p> <p>昭和八年特別大演習部隊ニ臨時ニ補職セラレタル者(下士官及兵ヲ含ム)ニ對スル俸給(特別加俸共)ハ大正十五年官房第二二七八號第五條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ便宜當該艦船部隊ノ支辨トナスコトヲ得</p> <p>昭和八年五月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>官房第二一一七號</p> <p>今回ノ特別大演習ニ參加スル海軍軍人軍屬ノ給與ニ關シ左ノ通定ム</p> <p>昭和八年五月十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>一 艦船北緯二十六度以南ノ海面ニ出動ノ際北緯二十</p>
<p>六度ヨリ同二十度迄ノ海面(南洋群島沿岸ヲ除ク)ニ在ル間ハ給與令第五表第三欄、北緯二十度以南ノ海面及南洋群島沿岸ニ在ル間ハ同表第四欄ノ航海加俸ヲ支給ス</p> <p>二 觀艦式ニ關シ横濱沖在泊中ハ定繫港外ニ在ルモノト看做シテ航海加俸ヲ支給ス</p> <p>三 小笠原島ニ在勤スル者ニシテ左ニ掲グル者ニハ現行規定ニ拘ラズ左ノ區分ニ依リ僻地在勤手當ヲ支給ス</p> <p>イ 將官 四拾五圓</p> <p>ロ 准士官以上(將官ヲ除ク)ニシテ硫黃島ニ在勤スル者 僻地在勤手當支給規則別表所定額ノ三割増</p>	<p>○通牒</p>	<p>經給第五五號</p> <p>昭和八年五月十日</p> <p>關係各廳御中</p> <p>特別大演習給與事項ニ關スル件通牒</p> <p>海軍省 經理局</p>

海軍公報(部内限) 第千五百二十五號 昭和八年五月十日

二〇一

今回ノ特別大演習ニ關スル給與事項ニ付左記ノ通取扱方一定致候

記

一 演習部隊ニ臨時ニ補職セラレタル者(下士官及兵ヲ含ム)ノ給與

(一) 旅 費

原所屬應ト演習部隊間ノ旅費ハ赴任又ハ轉勤ノ例ニ依ル(海軍内國旅費規則第十一條及第五十二條參照)

(二) 其ノ他ノ給與

當該部隊勤務者ト同一ノ給與ヲ爲シ特設部隊勤務中ハ當該部隊所在ノ地域ニ付定メラレタル特別給與ヲ爲ス

二 準備ノ爲演習部隊編成前着任シタル者又ハ殘務整理ノ爲演習部隊解隊後殘留スル者ノ給與

當該部隊勤務者ト同一ノ給與ヲ爲シ當該應ト原所屬應間ノ旅費支給ニ付テハ前號(一)ニ同ジ但シ陸上ニ設置セラレタル艦隊若ハ戰隊司令部職員ニ對シテハ食料(下士官及兵ニ對スル分ヲ除ク)及航海加俸ヲ支給セズ

三 航海加俸

北緯二十六度以南ノ海面(沿岸ヲ含ム)ニ出動スル艦船乗員ノ航海加俸ハ給與令施行細則第三十一條第三號及第四號ノ規定ニ依ラズ官房第二一一七號ノ定ムル區域ニ從ヒ當該緯度ニ離着ノ日ニ依リ區分支給シ同一日ニ於ケル加俸額ヲ異ニスル場合ニハ其ノ多額ニ付支給ス

○ 辭 令

○昭和八年特別大演習部隊編成中左ノ通被仰付

第八戰隊參謀 海軍少佐 丸安 金 兎

(各通) 同 島井 善次郎

第三水雷戰隊參謀 同 御船 傳藏

(各通) 同 猪口 敏平

第四水雷戰隊參謀 同 柳原 増藏

第四潜水戰隊司令部附兼參謀 同 長岡 博吉

第二航空戰隊參謀 同 城 英一郎

第二航空戰隊司令部附兼參謀 海軍大尉 山下 榮

1014 0265

海軍少佐 小倉 眞二

第一根據地隊參謀兼第一通信隊長

同 川井 繁藏

第一根據地隊參謀兼第一防備隊參謀(以上皆海軍省)

海軍公報(部内限) 第千五百二十五號 昭和八年五月十日

三〇三

1015 0266

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百二十六號
 昭和八年五月十一日 (木)
 海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第一六號ノ一六

昭和八年五月十一日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各艦艇兵器簿機關長主管電球之部中エ式二〇W、三〇W、四〇W電球ノ常備數ヲ左記ノ通改正ス
 記

特務艦	軍艦古鷹型、青葉型、妙高型、高雄型、驅逐艦吹雪型	電球現定數 合計ノ1/10	同上ノ殘數	同上ノ殘數	記 事
	同上	同上ノ殘數	同上ノ殘數	同上ノ殘數	
艦艇	同上	同上ノ殘數	同上ノ殘數	同上ノ殘數	記 事
	同上	同上ノ殘數	同上ノ殘數	同上ノ殘數	

右以外ノ各艦艇 (潜水艦及射撃艇) 電球現定數
 合計ノ1/10
 同上殘數
 同上殘數
 同上殘數
 因右電球以外ノ電球ニハ適用セズ

○ 通 牒

官房第二二二五號

昭和八年五月十日

海軍次官

關係各廳長殿

士官教育實情調査ニ關スル件申進

海軍大佐佐藤市郎海軍ニ於ケル士官教育制度ノ研究ノ用務ヲ以テ部内各部ニ出張實情ヲ調査セシメラレ候ニ就テハ本人ノ任務達成上資料ノ提示共ノ他ニ關シ充分協力セシメラルル様致度

○ 辭 令

海軍公報 (部内限) 第千五百二十六號

昭和八年五月十一日

二〇五

海軍中佐 加藤 尚雄
 昭和八年大演習觀艦式事務委員ヲ命ス
 同 上阪 香苗
 昭和八年大演習觀艦式事務委員ヲ免ス
 海軍少佐 山本 親雄
 海軍武功調査委員ヲ命ス(以上^{海軍省}海軍省)

○雜款

○郵便物發先送變更(五月三日
 本欄参照)
 第五驅逐隊(松風、春風、旗風、朝風)宛
 五月十四日迄ニ到達見込ノモノハ
 其ノ後ハ
 館 山
 横 須 賀

○訂正
 一昨九日通牒欄特別大演習特設司令部事務取扱開始中
 第八戰隊司令部 北上」ノ項ヲ削除ス

1017 0268

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百二十七號

海軍大臣官房

昭和八年五月十二日(金)

○令達

官房第一五〇五號ノ一〇

昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和八年五月十二日

海軍大臣

歳出臨時部

款	項	目	節	解	疏	會計科目 電信略號
軍需品 整備費 (兵器充 實費) (航空兵器 充實費)		造船費				ツス
		造船監督 諸費				ツン

○辭令

海軍機關中尉 矢口 良雄

昭和八年特別大演習部隊編成中第三潜水戦隊司令部

海軍公報(部内限) 第千五百二十七號 昭和八年五月十二日

二〇七

附被仰付(海軍省)

1018 0250

(限 内 部)



海軍公報

(部内限) 第千五百二十八號

昭和八年五月十三日(土)

海軍大臣官房

○ 雜 款

○ 通 信

横須賀海軍無線電信所ハ電信柱改装工事中ニ付五月七日ヨリ當分ノ間海軍無線電信規程附表第一ニ依ル通信電波一〇k.o (豫備)ヲ使用ス

海軍公報(部内限) 第千五百二十八號 昭和八年五月十三日

二〇九

1019 0270

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百二十九號

昭和八年五月十五日(月)

海軍大臣官房

○通牒

教育第五九號ノ一一

昭和八年五月十三日

海軍省、教育局

關係各應御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料
ノ件通知

昭和八年五月第十三回無線電信遠距離受信檢定信文送
信要目左記ノ通
記

東京海軍無線電信所 送信

番號	送信日	時	速度(一分間)	信文修正
一	五月四日	午後一時三十分	七八	
二	同	一時六分	七七	
三	同	一時九分	七七	
四	同	一時十二分	七八	
五	同	一時十五分	七七	
六	同	一時十八分	七七	
七	同	一時二十一分	七八	
八	同	一時二十五分	七七	
九	同	一時三十分	七七	
一〇	同	一時三十三分	七七	
一一	同	一時三十六分	七八	
一二	同	一時三十九分	七七	
一三	同	一時四十三分	七七	
一四	同	一時四十六分	七八	

海軍公報(部内限) 第千五百二十九號

昭和八年五月十五日

三二一

1020 0271

一五同	一時五十分	七八
一六同	一時五十三分	七七
備	一、天 候晴	
考	一、送信状態 良好	
○ 辭 令		
<p>海軍中佐 柿本權一郎</p> <p>上海へ出張ヲ命ス<small>(五月二十二日海軍省)</small></p> <p>同 秋吉利雄</p> <p>(各通) 海軍技手 山崎嘉美</p> <p>技生 平本義男</p> <p>滿洲國へ出張ヲ命ス<small>(以上五月十五日同)</small></p>		

1021 0272

(限 内 部)

海軍公報(部内限)附録

海軍大臣官房

昭和八年五月十五日(月)

昭和七年中軍事普及實施狀況

昭和七年中軍事普及實施ノ概況左ノ如シ

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 一、軍事講演ヲ聽講シタル者ノ員數 | 一、一五二、三六八 |
| 二、海軍活動寫眞ヲ觀覽シタル者ノ員數 | 二、八三六、〇一一 |
| 三、軍港要港ヲ觀覽シタル者ノ員數 | 四九八、一一七 |
| 四、軍艦ヲ觀覽シタル者ノ員數 | 一、〇四五、三九六 |
| 五、艦船ニ便乗シタル者ノ員數 | 二九、五五一 |
| 六、軍樂隊ノ奏樂ヲ聽取シタル者ノ員數 | 一、一四五、八三〇 |
| 七、「ラヂオ」放送ノ回數 | 二八 |
| 八、軍事普及用資料ヲ作製シタル數量 | 四六八、二四〇部
七七〇、七五八枚 |
| 九、新聞雜誌等ニ寄稿シタル回數 | 四三二 |
| 一〇、兵器需品ヲ無償下附シタル件數 | 一八三 |

海軍公報(部内限)附録

二、海軍省ニテ作製ニ關シ指導援助ヲナシタル活動寫眞映畫

映畫名	卷數	記	事	作製者
太平洋	一二	勅諭下賜五十周年ヲ記念スル映畫		新興キネマ株式會社
沈黙の英雄 東郷元帥の放送	一	東郷元帥ガ昭和七年一月四日勅諭下賜五十周年ノ佳節ニ當リ自邸ヨリ放送ノ實況		日章シネマ
上海事變	五	上海事變ニ於ケル海陸軍ノ戰鬥狀況ヲ撮影セルモノ		滿洲教育映畫社
日本及日本人	四	我國體ト日本精神ヲ現シ國民ノ奮起ヲ促シタルモノ		新振キネマ
僕ハ少年航空兵	五	少年飛行家志望ノ一少年ガ航空兵トナルマデノ苦心ヲ映畫化シタルモノ		國際シネマ
防空	三	防空ノ觀念ヲ説キ其ノ施設方法ヲ指導セルモノ		都商會
若き空の勇士	一	少年航空兵生活ノ實寫		岡本洋行
輝く命名式	一	國民報國ノ熱誠ノ現レトシテ献納サレタ戰車、報國飛行機等ノ命名式實況		松竹キネマ株式會社
一萬噸巡洋艦 見學	一	閣僚、貴衆兩院議員及地方官ガ軍艦愛宕見學實況		同

三、兵器用品其ノ他參考品ヲ貸與シタル主ナル博覽會展覽會

會名	會場	主催	入場者數
勅諭五十周年記念 國威宣揚大展覽會	京都丸物百貨店	第十六師團	未詳

1023 0274

海軍公報(部内限) 附録

滿洲上海事變展覽會	勅諭五十周年記念展覽會	國防展覽會	勅諭五十周年記念展覽會	滿蒙支那大博覽會	軍事博覽會	勅諭五十周年記念展覽會	防空展覽會	國防展覽會	滿蒙展覽會	騷亂の上海今昔展覽會	滿蒙博覽會	上海事變展覽會	上海事變展覽會	滿蒙權益博覽會
東京 遊就館	久留米市	福岡縣 八女郡福島町	吳市	京都市	長野縣 上諏訪町	東京 三越	佐世保市	海軍火藥廠	新潟市	横濱 越前屋	千葉市	横濱 相模屋	東京 白木屋	大阪 堂島ビル
遊就館長	第十二師團	町商工會	吳鎮守府	京都 振興協會	信陽新聞社	東京 三越	佐世保鎮守府	海軍火藥廠	新潟毎日新聞社	東京日日新聞社	千葉 日日新聞社	東京 朝日新聞社	東京 白木屋	大阪市 山田廣三郎
同	同	未詳	一〇〇、〇〇〇	三三七、五〇〇	九七、〇〇〇	三八九、〇〇〇	未詳	三六、〇〇〇	五三、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	七八、〇〇〇	三六二、〇〇〇	三九七、〇〇〇	未詳

支那滿洲上海事變展	沼津市	沼津毎日新聞社	三八、〇〇〇
第四回發明博覽會	上野公園	發明協會	三六二、七四〇
滿蒙大博覽會	大阪城	夕刊大阪新聞社	三〇〇、〇〇〇
産業と觀光の大博覽會	金澤市	金澤市長	二七六、〇〇〇
大東郷展覽會	名古屋市	海軍協會 名古屋支部	未詳
上海滿蒙事情展覽會	長崎市	長崎市商工會 同在郷軍人會	同
海軍展覽會	京城	海軍協會京城支部	同
海軍記念展覽會	宮崎神宮	日本海々戰記念會	同
滿洲上海事變戰利品展覽會	東京 低てい屋	皇政會本部	同
發明と國產獎勵博覽會	札幌市	札幌實業組合	一五五、〇〇〇
船の展覽會	東京新宿 三越支店	同上支店長	三一〇、〇〇〇
國防と滿蒙展覽會	米子市	米子商工會議所	五〇、〇〇〇
防空展覽會	高松市	丸龜聯隊區司令部	八五、〇〇〇
上海事變海軍戰利品展覽會	大連市	海軍協會滿洲支部	未詳
新興滿蒙博覽會	京城	京城日報社	同

1025 0276

滿蒙上海事變記念展覽會	第十二師團	同
滿蒙展覽會	佐賀市	未詳
婦人子供博覽會	兵庫縣寶塚	五〇〇、〇〇〇
防空展覽會	舞鶴	未詳
滿蒙軍事博覽會	名古屋市	四二五、〇〇〇
滿洲國大博覽會	東京國技館	同
	大日本角力協會	
	新愛知新聞社	
	舞鶴要港部	
	阪神急行電鐵會社	
	佐賀縣廳	

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百三十號

昭和八年五月十六日 (火)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一五〇五號ノ一一
昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス
昭和八年五月十六日

歳出臨時部 海軍大臣

款	項	目	節	疏	會計科目 電信略號
滿洲事 件費	滿洲事 件費	雜給及 雜費			
			宿舍手當		マミ

○ 通 牒

官房機密第一〇四六號
昭和八年五月十六日

海軍省副官

關係各廳長殿

昭和八年特別大演習ニ關スル發表事項
ノ件通牒

本年施行相成ルベキ特別大演習ニ關シ左記事項部外ニ
發表差支ナキコトニ被定候條御了知アリ度

記

- 一、特別大演習施行時機
六月上旬ヨリ八月下旬迄トス
 - 二、演習地域
本邦南方海面
 - 三、演習參加艦船部隊
 - (一)海上部隊
聯合艦隊ノ諸艦並ニ各鎮守府、要港部ニ於ケル在
役艦及豫備艦船ノ大部
 - (二)陸上部隊
横須賀、吳及佐世保鎮守府所屬官術部隊
- 右ノ内聯合艦隊及各鎮守府ハ八月月上旬ヨリ演習ニ參

海軍公報 (部内限) 第千五百三十號

昭和八年五月十六日

二一三

1027

0270

加ス

四、主ナル演習部隊指揮官

聯合艦隊司令長官 海軍大將 小林 躋造

第二艦隊司令長官 海軍中將 末次 信正

第四艦隊司令長官 同 永野 修身

横須賀鎮守府司令長官 海軍大將 野村 吉三郎

吳鎮守府司令長官 海軍中將 中村 良三

佐世保鎮守府司令長官 同 左近司 政三

五、主要實施事項

演習ノ初期約二箇月餘各部單獨訓練ヲ行ヒ其ノ終期方略ニ基キ 大元帥陛下御統裁ノ下ニ對抗演習ヲ行フ

六、特別大演習觀艦式

八月二十五日横濱沖ニ於テ舉行セラル

觀艦式後 御講評終テ特別大演習ヲ終結セラル

尙特別大演習施行時機ニ關シ部外ニ説明ヲ要スル場合ハ左ノ趣旨ニ依ルコトト致度

一、演習時機ヲ夏季ニ選定セラレタル理由

海軍大、小演習ハ秋季ニ行ハルルヲ例トセルモ時ニ異リタル季節ニ之ヲ行フ要アルヲ以テ本年ハ夏季ヲ選定セラレタリ

二、演習期間ノ比較的長期ナル理由

本年ノ特別大演習ニハ豫備艦ヨリ之ニ參加スルモノ多數アリ多年ノ經驗ニ鑑ミ之等艦船ニ相當期間ノ準備訓練ヲ施行シ演習ノ效果ヲ十二分ニ發揮セントスルニ在リ

軍務一第六八號

昭和八年五月十五日

海軍省軍務局長

各廳長殿

昭和八年特別大演習ノ際ニ於ケル儀禮

施行ニ關スル件申進

昭和八年特別大演習ノ際ニ於ケル儀禮施行ニ關シテハ昭和七年軍務一第一七二號(昭和七年九月十四日海軍公報參照)ニ準據ノコトト被定候處第一期演習期間演習參加艦船部隊ニ於テハ海軍禮式令第七十七條ノ規定ハ之ヲ適用セザルコトト被定候

追テ第一期演習期間中ト雖モ昭和三年官房第一一三三號(諸例則卷三、一二八頁參照)ノ規定ハ之ヲ適用セラルル義ニ有之候

經豫第三八一號

本年經豫第二一九號昭和八年度滿洲事件費整理區分中
左ノ通追加シ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和八年五月十六日

海軍省經理局長

二、ハ、雜給及雜費

(十)中「特ニ要スル」ノ下ニ「宿舍手當、」
ヲ追加ス

海軍公報(部内限) 第千五百三十號 昭和八年五月十六日

二二五

1029

~~0280~~

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百三十一號

海軍大臣官房

昭和八年五月十七日(水)

○令達

官房第一五〇五號ノ一二

昭和八年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和八年五月十七日

海軍大臣

歳出經常部

款	項	目	節	解	疏	會計科目 電信略號
		(軍事費)(俸給) (休職停職俸給)				
		○法務官				
		○書記				

官房第二二三一號
昭和八年度歳入科目中左ノ通追加ス

昭和八年五月十七日

海軍大臣

歳入經常部

款	項	目	解	疏	會計科目 電信略號
		(官業及官有財產收入) (官有物貸下料)			
		旅順海軍修理 工場貸下料			スチ
		旅順海軍土地 建物貸下料			スリ

歳入臨時部

款	項	目	解	疏	會計科目 電信略號
		(雜收入)			
		臨時受託 造修收入			スヒ
		臨時受託 造修收入			

○通牒

特別大演習特設司令部事務取扱場所變更左ノ通

海軍公報(部内限) 第千五百三十一號

昭和八年五月十七日

二一七

1030

0284

昭和八年五月十六日

特別大演習統監部

赤軍第四艦隊司令部事務ハ五月十九日以後軍艦長門ニ於テ取扱フ

○ 雜 款

○郵便物發送先

赤軍第四艦隊司令部、軍艦長門宛

五月二十六日迄ニ到達見込ノモノハ

同 三十一日迄ニ

六月 六 日迄ニ 同

軍艦扶桑、霧島、伊勢宛

五月三十一日以後到達見込ノモノハ

左記ニ依リ陸上假設無線電信所設置ニ付同期間電報

ニ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

記

自五月二十九日 宿 毛

至同三十一日

自六月 一日 佐 伯

至同六日

特務艦神威宛
五月二十二日迄ニ到達見込ノモノハ 旅 順
其ノ後ハ 佐 世 保

1031 0282

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百三十二號

海軍大臣官房

昭和八年五月十八日(木)

○通牒

官房第二二五〇號

昭和八年五月十八日

海軍省 副官

關係各廳長殿

報國第二十九號(中學生號)、同第三十號(生保號)、同第三十三號(勞働號)、同第三十四號、同第三十五號及同第三十六號(茨城號)飛行機ノ要目發表及寫真撮影範圍ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ左記ノ通り知相成度

記

- 一、報國第二十九號(中學生號)、同第三十號(生保號)及同第三十三號(勞働號)
- 報國第二十一號(埼玉號)ト同様トス
- 二、報國第三十六號(茨城號)

三、報國第三十三號及同第三十四號

イ、要目發表ハ別ニ制限ヲ設ケザルモ概ネ左記ニ依

報國第二十號(富國號)ト同様トス

機 種 「フオツカー」型偵察機

翼 ノ 數 複葉

翼 ノ 全 巾 一五・五米

機 體 ノ 長 サ 一一・二米

高 サ 三・六米

全 備 重 量 約三噸

發 動 機 壽、四五〇馬力

乘 員 四名

最 大 速 力 約一三〇節

上 昇 力 三千米ハ約一二分

ロ、寫真(活動寫真ヲ含ム)撮影

差支ナシ

(三月十日公報(部内限)所載官房第一〇二三號參照)

海軍公報(部内限) 第千五百三十二號

昭和八年五月十八日

二一九

1032

0293

○雜款

○左記ノ通報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラレ

記

一、報國第二十九號(中學生號)〔全國中學校職員生徒

ノ獻金ニヨリ製造ノ九〇式艦上戦闘機〕

報國第三十號(生保號)〔生保證券株式會社ノ獻金

ニヨリ製造ノ九〇式艦上戦闘機〕

報國第三十三號(勞働號)〔國防獻金勞働協會會員

其ノ他諸工場従業員ノ獻金ニヨリ製造ノ九〇式艦

上戦闘機〕

報國第三十四號(東京市鈴木忠治ノ獻金ニヨリ製

造ノ「フオツカ」型偵察機但シ部外ヘハ獻金者

ノ氏名ヲ發表セズ)

報國第三十五號〔全國有志者ノ獻金ニヨリ製造ノ

「フオツカ」型偵察機〕

以上五基

日時(閉式時刻)

五月二十一日(日曜)〔當日雨天ノ場合ハ同二十

八日(日曜) 六月四日(日曜)ノ順ニ延期〕午前

九時三十分

場所

遞信省東京飛行場

二、報國第三十六號(茨城號)〔茨城縣縣民ノ獻金ニヨ

リ製造ノ九〇式二號水上偵察機

日時(閉式時刻)

五月二十七(土曜)午前十時〔當日雨天ノ際ハ

六月三日(土曜) 同十日(土曜)ノ順ニ延期、コ

ノ場合午後二時〕

場所

霞ヶ浦海軍航空隊

(海軍省副官)

○郵便物發送先

練習艦隊(磐手、八雲)宛

七月二十日以後ニ發送スルモノハ

横須賀局留置

夫以前ニ發送スルモノハ從來通

横濱局氣付(軍艦郵便)

(註) 南洋群島航海中ハ横濱局ヨリ授受可能地ニ回

送ス)

海軍公報

(部内限) 第千五百三十三號

海軍大臣官房

昭和八年五月十九日(金)

○令達

官房第二二七二號

昭和七年恩賜研學資金受賞者左ノ通定ム

昭和八年五月十九日

海軍大臣

日本水軍史

海軍大尉 山屋 太郎

港灣砲台中有効ナル照射訓練ニ必要ナル施設ノ研究

同 海軍大尉 蒔田 義郎

固定銃空中射撃教育法ノ研究

同 岡村 基春

帝國海軍ニ於ケル血液ノ醫學的考察

海軍軍醫大尉 野中 彌六

〔附〕

左ノ對策ハ優秀ナル對策ト認ム

下士官兵教育資料トシテ「部下指導ノ要義」ヲ論述編纂

海軍大尉 志摩 庚子郎

同 海軍機關大尉 長谷川 英雄

海中四型(呂二七潛)潜水艦機關管理法ノ研究

同 黒田 忠仁

機關整理法ノ研究 同

三枝 七五三

- 一、淡煙起動法
- 二、主二次電池壽命延長法

○通牒

經豫第四〇四號

昭和八年五月十九日

海軍省經理局長

各支田官殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

今般大藏省理財局長ヨリ日本銀行代理店設置ニ關シ左記ノ通牒有之候

記

藏理第五三二號

昭和八年五月十一日

大藏省理財局長 富田 勇太郎

海軍公報(部内限) 第千五百三十三號

昭和八年五月十九日

三三二

1034 0285

海軍省經理局長 加藤亮一殿

國庫金並政府有價證券ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ今般赤峰、承德及海拉爾ニ設置シ同地方ニ關係ヲ有スル官廳ノ事務ノミニ限り取扱ハシムルコトト相成候ニ付御了相成度此段及通知候也
追テ右ハ來ル五月十五日ヨリ事務開始ノ豫定ニ有之尙本件ハ官報ニ告示ヲ爲ササルニ付御含相成候度候

○ 辭 令

豫備役海軍軍醫大尉 磯部 應三

同 堀内 捷

同 高野 直一

(各票) 同 佐藤 嘉津馬

豫備役海軍軍醫中尉 高橋 英三郎

同 仁藤 勝夫

同 松山 武郎

同 近藤 正

右自昭和八年六月二日至八月二十五日八十五日間演習ノ爲召集ス

海軍軍醫大尉 磯部 應三

(各通)

同 堀内 捷

同 高野 直一

同 佐藤 嘉津馬

海軍軍醫中尉 高橋 英三郎

同 仁藤 勝夫

同 松山 武郎

同 近藤 正

召集中第四艦隊司令部附被仰付(以上五月十九日海軍省)

○ 雜 款

○郵便物發送先

吳鎮守府佐伯海軍航空隊設立準備委員中別府海軍中

佐及吉村海軍機關中佐宛 大分縣南海部郡佐伯町

自今 吳海軍建築部佐伯出張所内

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百三十四號

昭和八年五月二十日(主)

海軍大臣官房

○通牒

軍需機密兵四第八八二號

昭和八年五月十九日

海軍省軍需局長
海軍艦政本部長

關係各廳長殿

艦内照明用電珠供給標準ニ關スル件通牒

昭和八年官房機密第一六號ノ一六ヲ以テ各艦艇兵器簿
機關長主管電球之部改正相成候ニ付テハ昭和六年軍需
兵第二二七六號通牒ノ本件ハ自然消滅ノ義ト了知相成
度

綴ニテ

航本第一一八八號

海軍航空機(機體)基本部品制式ニ別紙ヲ加フ

別紙ハ所要ノ向ニ配付ス

昭和八年五月十九日

海軍航空本部長

○辭令

○昭和八年特別大演習部隊編成中左ノ通被仰付

第四艦隊參謀兼副官 海軍大尉 多久 丈雄

第五戰隊司令部附兼參謀 海軍少佐 福吉 保夫

第五戰隊參謀 同 細谷 資芳

第八戰隊司令部附兼參謀 同 小野田 捨次郎

第九戰隊司令部附兼參謀 同 鮫島 素直

第九戰隊參謀 海軍大尉 長井 純隆

第四潜水戰隊司令部附(七月二) 海軍少佐 魚住 治策

第一根據地隊副官兼第一防備隊副官 同 緒方 勉

第一航空隊飛行長 同 藤吉 直四郎

海軍公報(部内限) 第千五百三十四號

昭和八年五月二十日

二三三

第二航空隊飛行長兼分隊長	同	前田孝成	扶桑乘組	田中兼光
扶桑分隊長	海軍大尉	安藤憲榮		米原實
妙高水雷長兼分隊長	海軍少佐	香春克巳		佐藤文雄
妙高乘組	海軍大尉	室井捨治		川口敏
足柄分隊長	同	大谷稻穂	(各通)	友永丈市
古鷹水雷長兼分隊長	同	原爲一		豊増清八
古鷹乘組	同	宇都米二		山口幸三郎
那珂航海長兼分隊長	海軍少佐	佐藤述	比叡乘組	相生高秀
北上水雷長兼分隊長	海軍大尉	吉田正義	霧島乘組	川久保尙忠
赤城分隊長	同	岡村基春	妙高乘組	太田一道
龍驤乘組	同	源田實	(各通)	小松良民
長鯨乘組	同	添田啓次郎		溝端嘉一
(各通)	海軍少尉	小西四六		武田八郎
長門乘組	同	松本正平	那智乘組	原口榮
(各通)	同	大石繁雄	羽黒乘組	吉井壽郎
伊勢乘組	同	小屋愛之	足柄乘組	横田保輝
(各通)	同	吉村治	(各通)	多ヶ谷忠美
	同	古賀逞造		

北上乗組 (各通)	同	小福田 租	龍驤乗組	同	海軍中尉	秋田 芳男
那珂乗組 (各通)	同	吉村 貫一	第四艦隊司令部附	同	入戸野 篤生	
大井乗組 (各通)	同	海老原 太郎	第五驅逐隊附	同	齒田 美輝	
古鷹乗組 (各通)	同	池田 鶴喜	第十九驅逐隊附	同	自見 仁一	
川内乗組 (各通)	同	當山 全信	第二十驅逐隊附	同	清水 珂琅	
長鯨乗組 (各通)	同	佐藤 朴	(各通)	同	平山 敏夫	
赤城乗組 (各通)	同	森岡 仁太郎	第十三潜水隊附	同	山崎 譽	
	同	新福 節	(各通)	同	海軍少尉	市來崎 秀丸
	同	丹下 藹基	第二十九潜水隊附	同	花水 善七	
	同	中村 虎彦	第三潜水隊司令部附	海軍機關大尉	荻岡 豊男	
	同	早瀬 義暢	第一根據地隊軍醫長兼第一防備隊軍醫長	海軍軍醫少佐	結城 準	
	同	三宅 忠義	第二航空隊軍醫長	海軍軍醫大尉	遠藤 忠孝	
	同	佐藤 清忠	第四艦隊司令部附	同	富田 東助	
	同	高橋 豊	第一航空隊軍醫長	同	早川 美智雄	
			長門乗組	同	春日 義樹	
			霧島乗組	同	清原 藩卿	

海軍公報(部内限) 第千五百三十四號 昭和八年五月二十日

二二五

1038 0239

伊勢乗組 同 栗林 護
扶桑乗組 同 高取 利雄

(各通)

海軍軍醫中尉 田原 倫典
竹村 多一

第二航空隊附

第四艦隊主計長

海軍主計大佐 元松 直人
海軍主計少佐 加藤 勳

第一根據地隊主計長兼第一防備隊主計長

第二航空隊主計長

同 松ノ谷武三郎

第一航空隊主計長

同 白石 良一
柴本 富三

川内主計長兼分隊長

同 松岡 實

那珂主計長兼分隊長

同 幸崎 康雄

第四艦隊司令部附

海軍主計少尉 幸崎 康雄

昭和八年特別大演習部隊編成中第一根據地隊參謀兼
第一防備隊參謀被仰付置候處兼職被免

(各通)

海軍中佐 上阪 香苗
海軍大尉 中野 實
同 築田 收

昭和八年六月一日ヨリ八月二十六日迄臨時聯合艦隊

司令部附被仰付

海軍主計大尉 熊谷 善男

昭和八年特別大演習部隊編成中兼川内主計長分隊長

被免

同 佐々木 介次

昭和八年特別大演習部隊編成中兼那珂主計長分隊長

被免(以上^註海軍省)

1039 0290

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百三十五號

海軍大臣官房

昭和八年五月二十二日(月)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

軍艦伊勢宛

五月二十七日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

其ノ後ハ

第四艦隊司令部ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第千五百三十五號

昭和八年五月二十二日

三二七

1040 0291

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百三十六號

海軍大臣官房

昭和八年五月二十三日(火)

○通牒

官房第二三三〇號

昭和八年五月二十三日

海軍省 副官

關係各廳長殿

演習參加艦船ノ發着ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ニ依リ海軍公報ニ掲載セラルベク候條了
知相成度

記

- 一、第一編制赤軍第四艦隊所屬艦船ハ五月二十五日以後、同青軍第三潜水戰隊各艦及第一根據地隊附屬艦船ハ六月二十五日以後、聯合艦隊所屬艦船ハ七月十三日以後行先及所在地ヲ作業地トス
- 二、八月一日ヨリ同月三十一日迄ハ所在地ヲ演習地トス

○雜款

○郵便物發送先

赤軍第九戰隊司令部、軍艦古鷹、大井宛

五月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

其ノ後ハ 大分縣佐伯

赤軍第四潜水戰隊司令部、軍艦長鯨、第十七潜水隊(伊五一、伊五二)、第二十七潜水隊(呂六五、呂六六、呂六七)宛

六月二日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

其ノ後ハ 大分縣佐伯

第二十九潜水隊(伊六一、伊六二、伊六四)、第二十六潜水隊(呂六〇、呂六一、呂六二)宛

六月一日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保

其ノ後ハ 大分縣佐伯

左記期間陸上假設無線電信所設置ニ付電報ニ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

自六月四日 至同 六日

海軍公報(部内限) 第千五百三十六號

昭和八年五月二十三日

三二九